校正士部集 全

冬の日　五哥仙外追加　歳の日　生哥仙外追加　同断句　春二十六句
夏二十六句　秋十句　冬七句　阿羅漢断句　花
十句　杜宇二十句　月三十句　雪三十句　歳旦四十
五句　初春六十句　仲春二十七句　暮春二
十九句　初夏二十四句　仲夏四十句　暮夏二十
六句　初秋二十七句　仲秋二十三句　暮秋十一句
初冬二十七句　仲冬二十六句　暮冬八句
雜　中行事十二句　詩題十六句　外三十一句
哥二十九句　旅三十五句　述懐三十三句　戀十七句
無常十七句　釈教四十九句　神祇二十七句
祝七句　員外哥仙十内半哥仙一
此左者　哥仙五　猿蓑　桃句　冬九十四句　夏九十四
秋七十六句　春八十五句　三十三句　九吉日記二十五
句　岌　俳哥仙三百韻　立春雑句八十四句　夏七十
三句　秋四十六句　冬五十七句　外四哥仙　続猿蓑
五哥仙　春百四十九句　夏九十一句　秋百四十二
冬百十五句　釈教十四句　旅二十句

附言

一 半紙本七部集先後二板あり其小異あり共小印刻磨滅して讀得るし且近年刊行の坊本粗漏ふして誤多しかゝる今諸本を參考し校訂すとゝ雖疑を闕もの少からず

一 本書の内袖草紙幽蘭集附合集或ハ先輩の注釋本等を引合し異なる酬酌して為ふ

一 流布の印本ハ假字ふして假字ふしてハ大のゝ盡し古假字ふ改む但方言里語の類ハ仮字ふ改ずして閲者の穿鑿ふ委ねとしてかなるの穿鑿ふ委ねハ

一 通例の合本篇次錯乱せり今原書編集の年序を考へ改むる本文ふ録せる如し

一 今刻卷懐ふ便利なるを欲ひ毎篇目録ふ楮數の多きを厭ひ毎篇目録ふの所作者郷里等の如きあるを樞用ありしなるもおかるべけるもの

花島庵識

芭蕉

建水　蛙ふ山茶花

蛙ふ　重出

杜若　正平

水　蕉

丈　兮

蕉

水

黄昏を横にながむる月細し　杜
隣さかしき町に下り居る　五
二の尼に近衛の花のさかりきく　水
蝶はむぐらにとばかり鼻かむ　蕉
のり物に簾透顔おぼろなる　五
いまぞ恨の矢をはなつ声　兮
ぬす人の記念の松の吹おれて　蕉
しばし宗祇の名を付し水　杜
笠ぬぎて無理にもぬるゝ北時雨　兮
冬がれわけてひとり唐苣　水
しらじらと砕けしハ人の骨か何　杜
烏賊ハえびすの国のうらかた　五
あはれさの謎にもとけじ郭公　水
秋水一斗もりつくす夜ぞ　蕉
日東の李白が坊に月を見て　五
巾に木槿をはさむ琵琶打　兮
牛の跡とぶらふ草の夕暮に　蕉
箕に鮗の魚をいたゞき　杜
わがいのりあけがたの星孕むべく　兮
けふはいもとのまゆかきにゆき　水
綾ひとへ居湯に志賀の花漉て　杜
廊下ハ藤のかげつたふ也　五

仲キ ウリ　チガ中 ベクラ

おもへども壮年いまだころもを振はず

はつ雪のことしも袴きてかへる　野水
霜にまだ見る蕣の食　杜国
野菊まで尋ぬる蝶の羽おれて　芭蕉
うづらふけれと車引けり　荷兮
麻呂が月袖に鞨鼓をならすらん　重五
桃花をたをる貞徳の富　正平
雨こゆる浅香の田螺ほりて喰　杜
奥のきさらぎを只なきに泣　水
床ふけて語ればいとこなる男　兮
縁さまたげの恨みのこりし　蕉
口おしと瘤をちぎるちからなき　水
明るハかるきに首筭せん　五
小三太に盃とらせひとつうたひ　蕉
月は遅かれ牡丹ぬす人　杜
縄あみのかゞりハ破れ壁落て　五
こつこつとのみ地蔵切町　兮
初花の世とや嫁のいかめしく　杜
かぶろいくらの春ぞかはゆき　水
櫛筥に餅すゆる閨ほのかなり　兮
ことし紀の浅姫と嫁して　蕉
篠ふかく梢ハ柿の蔕さびし　水

二

三絃からんふ破の笛人　五
なすのつる浪に木すゑ甚佐留　蕉
ねさめねさめのさても七十　国
奉加めす御堂に金の箔ひかるは　五
ひとつの傘の下挙りさす　兮
蓮池に鷺の子遊ぶ夕ま暮　国
まどに手づから薄様をすき　水
月にたてる唐輪の髪の赤枯て　兮
恋せぬきぬた臨済をまつ　蕉
秋蝉の虚に声きくしづかさは　水
藤の実つたふ雫ほつちり　五
袂より硯をひらき山かげに　蕉
ひとりは典侍の局か内侍か　国
三ヶ月の東は暗く鐘の声　五
秋湖かすかに琴かへす者　兮

三
清名波初しる
僅ふ十歩　杜国
つゝみかねて月とり落す霽かな　杜国
こほりふみ行水のいなづま　重五
歯朶の葉を初狩人の矢に負て　野水
北の御門をおしあけのはる　芭蕉
馬糞掻あふぎに風の打かすみ　荷兮
茶湯者おしむ野べの蒲公英　正平
らうたげに物よむ娘かしづきて　五
燈籠ふたつになさけくらぶる　国
つゆ萩のすまふ力を撰ばれず　蕉
蕎麦さへ青し滋賀楽の坊　水
朝月夜双六うちの旅ねして　国
紅花買みちにほとゝぎすきく　兮
しのぶまのわざとて雛を作り居る　水
命婦の君より米なんどこす　五
まがきまで津浪の水にくづれ行　兮
仏喰たる魚解きけり　蕉
縣ふるはな見次郎と仰かれて　五
五形菫の畠六反　国
娥しけふ新る雲雀ちりしと　蕉
素屋は馬の路かくし色之　水
年まきや文刻の橋のまちまちて　国
鳥羽の紅葉よみて送りぬ　兮
捨し子は柴苅長にのびつらん　水
晦日をさそふ刀売る年　五
手は荘基の盃の笑ながらさて　兮
襟に鳥尾の袖をこく　蕉
ほそく会椿を椎に森寝ん　五
茶子の初もへは寒の庵に禅　国

三

綾ひとへ居湯に志賀の花漉て　国

五　田家眺望

霜月や鸛の彳々ならびゐて　荷兮
冬の朝日のあはれなりけり　芭蕉
樫檜山家の体を木の葉降　重五
ひきずる牛の塩こぼれつゝ　杜国
音もなき具足に月のうすうすと　羽笠
酌とる童蘭切にいで　野水
秋のころ旅の御連歌いとかりに　蕉
漸くはれて富士みゆる寺　兮
寂として椿の花の落る音　国
茶に糸遊をそむる風の香　五
雉追に烏帽子の女五三十　水
庭に木曾作るこひの薄衣　笠
夏深き山橋にさくら見えん　兮
麻かりといふ歌の集あむ　蕉
江を近く独楽庵と世を捨て　五
我月出よ身はおぼろなる　国
旅衣笛に落花を打払　笠
籠輿ゆるす木瓜の山あひ　水
骨を見て坐に泪ぐみうちかへり　蕉
乞食の簑をもらふしののめ　兮
泥のうへに尾を引鯉を拾ひ得て　国
御幸に進む水のみくすり　五
ことにてる年の小角豆の花もろし　水
萱屋まばらに炭団つく臼　笠
芥子あまの小坊交りに打むれて　兮
おるゝはすのみたてる蓮の実　蕉
しづかさに飯台のぞく月の前　五
秋あつくきつる風情かなしき　国
[illegible]　笠
[illegible]母の袂に入　水
元政の草の袂も破ぬべし　蕉
伏見木幡の鐘はなをうつ　兮
いろふかき男猫ひとつを捨かねて　国
春のしらすのすゝき成よ　五
水干を秀句の聖わかやかに　水
山茶花匂ふ笠のこがらし　笠

六　追加

いかに見よと難面うしをうつ霰　羽笠
樽火にゆるゝ[illegible]の松　荷兮
[illegible]　重五
檜笠に宗祇の[illegible]　杜国

以上五歌仙
冬の日
外、追加

変化る

●一二月十八日

荷兮

重五
白相
雲竹
四主
執筆
立
兮
風
相
兮
主
相

五　圭　凡　五　兮　凡　相　兮　圭　相　五　圭　兮　凡　五　圭　相　兮　圭　凡

二月　五月雨水落ぬ　夏草

水　兮　人　水　兮　人　水　兮　人　水　兮　人　水　兮　人　水　兮　人　水　兮　人

名もむかし乗らぐ十上寺　水
大津へ急ぐ日のやうに比猿轡　葉
ここの日ハ舟我にもまし借く　人
松の若葉のためにも枇杷植て　兮
こやしの子すゞまき麦は秋　笠
一しきり菊ハ鳥も拿出しや　水
こハ見すつまさき洗る月の肩　葉
帰る我は尽れたるも送婦かな　人
来る日明におあい寄まく　兮
雨を待てさるも星に生なり　笠
力は初めを浸まし中結子　水
旅中の昇の事もみちうたに　葉
きぬものも我をまつの山く　人
人の住まぬ今の間の肩まき　兮
実のつをにおいてひけ　笠

三　六月十六日且葉にて
　田草をとりつゝ
植のこすてかしましき蘇芽かな　野水
行ゆる蒸日のあり　且葉
蔵にある岸水の奥ゆく道中　我人
ましく人とえる馬の子　蕉兮
京ゆく宗派しの舟は肩斜　冬文
草花植をとりつゝ傘の端　執笠
残暑に能勝寛の傍の集りて　葉
岩はすより落ちる里　水
田の日も霜焼中の人娘とり　兮
出てゐきくの一服のに族の一陣り　人
身よりは時を待に活ありて　水
雨て手の人枝むしる松　文
今宵ハ盆ありて中夜　
月十五の前は宿でて　
咲きけの茶にはまき出舎て　人
秋は和名に我の不顧　葉
秋の方の事になりと出産ぞ衣　文
歌を打空のまより人唐婦かな　兮
別は肩より綾かけきせ　葉
寒ゆく道の町ごとむつかし　水
気まへ矣にて我咲に光をるる　兮
薬枝は華生の背者の帝　人
須弥の病ハ仏よし生ハ行く　水
塵ぶり月ににほゆる八えを　文
洲嘉に宗部しまう鶯ぢん　人
岩まてある我ふにて付まし　葉
をさへのはに帰まてはの世の中ハ　文
むしろら枝もらの手我庵　人

形無の寿けゝ名に麦作り　業
春うちきこ送りて又ぬく秋ノ月　水
風情あるハ杜の月に烟入る　竹
吾の湖は湊に越ゆる夏は小　文
好中秋き宿銃寿そゝ露　水
浮うし一艘舟の尾殺し　竹
我恋の君か住り蓋投く　人
顔をも紫つゝいきて天ゝ代　業
山にも雨のかゝ浪あらよゝる　支
今は流れて流れる花ある　竹

四 追加
三月十九日東寧
山吹あ雲をきし野の宮近くに　我人
蝶ひのとるり　おきうまゝし　丹泉
きはの中の伴へ物思ゝうき物を　随意
行業のうえハ陸人玉器　森繁
影の表きれの秋ゝ比ゝ竜しく　荷竹
有あさし宿を門ゝ年をゆけ　執筆

以上三哥仙外ニ追加

発句 春
昌虎の松ヶ八千度代々の春　利重
元日の春の月の鏡鳴ゝ手し　重五

神楽は主に里井の舞をく舞ひ　昌圭
今形の来は猿ゆり麦の糸　白桐
門ハ松音楽園に雲さし　丹泉
鯉の青水あのうし梅ぶし　羽笠
南くはか松にも夜抄りそ　旦業
峰の人形柱丹に鹿の割るその　杜国
篠すら江々里の膝うつし　野水
早乙うる水も若への四方の色　春度
ゝ古ても小松原ふしん升の支　随意
形の六の柳の動く白しくく　荷兮
先にくはの末と立て魔して　全
前橋とて江戸で酒もうきく熟して　旦業
のこれから人の許へ行とて
水の上ハ白壁の中ゝタ霧　我人
古池や蛙飛こむ水の音　芭蕉
傘汗の膝の野燈の中ゝそに　重五
山や花摘ゝの酒も中　越内
ともに過ぎて麦の夜は五別人つ　我人

句 春 夏 冷
足引にきるを取る唐三ツ　杜国
葉を女宜成その八日も　亀風
旅来まで桜の春を奉る哉　荷兮

句滅別

度のとたろう[illegible]て刈ば　狩人
山畑の[illegible]　重丸
[illegible]　仝

句　籾

[illegible]の山[illegible]尾ハ[illegible]　九白
[illegible]　雪風
[illegible]の[illegible]板屋の[illegible]戸の一里塚　狩人
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　杜雪
若竹の[illegible]　春川
傘を[illegible]すて[illegible]　永泉

武蔵野をこゆる路

すゝきの[illegible]の石川　南秀
[illegible]板の長ハ[illegible]

馬ゝ[illegible]　麻丸

花時日和是之是常足

[illegible]に雑[illegible]　狩人
[illegible]の[illegible]　杵白
[illegible]　墓交
[illegible]ハ[illegible]　狩弓
[illegible]　仝
[illegible]　昌圭
[illegible]　重丸

壁間芭蕉画像懸掛

[illegible]尾[illegible]　狩人

[illegible]　仝

句　秋

[illegible]の[illegible]　且業
[illegible]の[illegible]　狩人
[illegible]　白相
[illegible]　芭蕉
[illegible]　狩人
[illegible]の[illegible]　杉水
[illegible]　仝
[illegible]　狩弓
[illegible]　仝
[illegible]　永泉
[illegible]　杜雪

友五　尚南
丞素
拝水
魚岡
越人
一井
後似
嵐緑
舟泉
改及
也虹
卜枝
酔雪
翁兮
傘十
秀芝
仁一
心苗
越人
甘水
重松
素文

月花

杜宇千句

芭蕉

全

荷兮
嵐蘭
落梧
一鷗
杜宇
全

何となくあかぬ世中の有明　イヨ　一泉

六句

結(?)海人の家の中の月夜かな　ヨネキ　野夢

七句

よき程に積て見る月夜かな　ギフ　一髪

句

雪二十句

大津にて

ゆきの日や船頭殿の顔の色　其角

いさ行ん雪見にころふ所まて　芭蕉

升落て寝覚の声の光かな　塵交

かさなるや雪のある山只の山　京　加生

車道雪なき方の野路かな　カヽ　小春

初ゆきを見てから顔を洗けり　越人

初雪に戸あけぬ留守の庵かな　是幸

雪の日は猶やさしさのひかりかな　杉芳

行きまよひ雪みるうちに日は暮ぬ　二水

雪降て馬屋にはひる雀かな　亀仙

雪の日はさこそ笠ふく草の原　ギフ　除風

ゆきの夜は川音細くなりにけり　嵐竹

初雪やさひしき里の夕けふり　傘下

ゆきの夜の舟より遠き小舟かな　芳川

雪の朝かけて鐘つく寺もなし　冬文

ゆき消て松の落葉の明り哉　桂夕

ちらちらと降雪かかる船の帆　荷兮

初雪や隣の屋根を見て暮ぬ　舟通

ゆき道に見えて遠くの山あらし　野水

雪かけて出る日毎の小松かな　芳川

句

歳旦

二日にもぬかりはせしな花の春　芭蕉

詠めやる日にむかしの春の空　古梵

若水や元日の空のつるへ縄　風絵(?)

松かざり世の家業も人は遅し　其角

うくひすの声にたつ浪の春　文鱗

目出度さは夜のあけかたの門の松　去来

今朝の春はしめて年の柄かな　二晶

元日や松よりあけて遠さかる　旅通

天の川すめる春の霞かな　カヽ　一笑

薫園に梅のにほひも白ふかし　奈良　枕石

子日には若菜つむらん袖の春　ギフ　落梧

若水をかけてみよしのの桜かな　亀洞

鶯の声や内に住むけしきの春　仝

下草のなかにめてたき梅の花　昌碧

元朝の静なるかなしき春の色　元広

小松引く野辺にいつも遊ふ門　舟泉

句

初春

[illegible]　織人
[illegible]　[illegible]水
[illegible]　[illegible]
[illegible]　小春
[illegible]　[illegible]羅
[illegible]　素林
[illegible]　玄察
[illegible]　[illegible]
[illegible]　織人
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一髮
[illegible]　[illegible]松
[illegible]　[illegible]美

[illegible]　[illegible]
[illegible]　西蕉

[illegible]　[illegible]
[illegible]　重出
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一井
[illegible]　故及
[illegible]　長松
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]水
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]川
[illegible]　[illegible]橋
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]水
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　織人

菊の花咲くや石屋の石の間　ナカラ　翁
菊は咲や麻ひろの花の[illegible]にも　去来
暖や一菊を待る[illegible]つく　イカ　一相
菊の[illegible]藪の椿[illegible]　ツシマ　一笑
菊の[illegible]に[illegible]行ゆく哉　市柳
菊の[illegible]野[illegible]　勇く
菊の[illegible]　梅舌
星[illegible]夕[illegible]の[illegible]　野水
[illegible]の[illegible]　董交
[illegible]　冬文
[illegible]一二寸　芭蕉
[illegible]馬の[illegible]　傘下
水仙の[illegible]　野通
[illegible]枝　荷兮
[illegible]
[illegible]見のぬき[illegible]　岳泉
接木
つま[illegible]接木[illegible]　傘下
梅
[illegible]梅の節　荷兮
同
[illegible]梅[illegible]　卜枝
[illegible]

[illegible]　瑞水
同
[illegible]　草洋
白尾[illegible]
[illegible]白[illegible]　野水
[illegible]　峯生
[illegible]　十一歳　朱馳
[illegible]　岳泉
[illegible]　真角
[illegible]　甚荒
[illegible]　随車
川[illegible]　冬文
[illegible]　素紅
[illegible]
[illegible]　未生
[illegible]　野水
[illegible]　織人
[illegible]　一笑
[illegible]　一楽
[illegible]　一笑
[illegible]　昌碧
[illegible]　杏雨

みしらて過しのうき柳かな　山橋
吹風も寒さ殊も柳かな　晋雨
身に風の寒さかくすや柳かな　松芳
風吹ぬ日ハ我寄りか柳かな　牧游
いそのいきに我結を如は柳かな　簾竹
蜂橋にみたさる月の柳かな　仝
まつ柳に折れし通の車かな　素秋
引いまゝかうしてこそ柳かな　麗歩
草とりは夢なし人を植るかな　生林

句　仲春

春雨は草木も色かはる嵐かな　不梅
草の葉や枝葉の上のあめかな　老松
草の花の夜ハ明けの日和かな　傘下
草の花は晴るゝもの紛るめかな　清洞
飛ぶ人見て畑の川鷺の声　玄来
万葉も見て待つ座聞かな　呂碧
桃さそ影るうしきのよしの哉　鐵人
廣庭に一本ゐし桜かな　笑苧
畑もハ築山に桜咲くなり　除風
手折て見る桜かな　一橋
しのぶの花を見る夜かな　孚松
すゞし山中の遠く通ふらん　一髪
春風にちりかゝる花かな　世水

あすかきは寒くて今朝の雪かな　除風
夕暮に清き時の雛かな　一雪
行かけて鴬泣て年の暮かな　清車
手を見て…雉かな　山さき 宗鍵
鳴立て入れきの雉の声　茂梧
咲をむつの下に…鳴雉　鐵人
いく行り…雉かな　玄来
飛入て…水中の雉かな　茂梧
ふと見て浪のまの雉かな　ツレて 松下
夕日の…に雉の声　一井
蝶を見る…笑しかな　柳風
陽炎の…の…かな　梅月
おや…　妙玉
桜井や…　百歳

句　暮春

行春の…の堇かな　忠和
行春…草　蘇竹
春の…　瓶水
花は…の…の…　舟泉
艸前て…春かな　路歩
行春…みかな　鴻遊
麦畑の人…　杜堂
身の月のすゝ不　大サカ 式之

夏

芭蕉　砂水　卜枝　樣子　漢百　去來　後州　長之　曼如　嵐蘭　且義　蕉笠　城人　傘下　友重　移竹　第正　嘉門　卜枝　世小　今

砂圓　傘下　叙　嵐蘭　移竹　芭蕉　一井　城人　不交　蕉葉　春湖　井門　泥可　漢く　去來　生林　作家如　絶こ

句

仲夏

青竹の八雲たみたる茅ぶき　元輔
茅葺の馬屋に寄る蛍　一蟹
夏草に埋もれ残る苔の階　不交
蛍きえうつかく人の夜ふかし　北鮎
夏の月豆腐の皮の浮ぶ　青江
白の板ハやとりの外に寄る　合時
叶ふ人に被う蚊帳　卜枝
水田に鳴る蛙の数　路水
ちめて薄雪をとゝ　
屋ろうろう　
うらかと流く蛍の影　故芳
故の蛍て梅の一本の星くず　小春
故ナ人に踏ぶせまく成ぬる　夜面
白に蛍金ぶくうんの世界　二水

川の庵にて

蛍飛ぶも絶しあのぬすびと　嵐重
蛍ハ老人ハ者ハ老人ハ者　野水
蛍ハ雅たみたる　元輔
茅葺の馬屋に寄る蛍　一蟹
夏草に埋もれ残る苔の階　不交
蛍きえうつかく人の夜ふかし　北鮎
夏の月豆腐の皮の浮ぶ　青江
白の板ハやとりの外に寄る　合時
叶ふ人に被う蚊帳　卜枝
水田に鳴る蛙の数　路水
ちめて薄雪をとゝ　
屋ろうろう　
うらかと流く蛍の影　故芳
故の蛍て梅の一本の星くず　小春
故ナ人に踏ぶせまく成ぬる　夜面
白に蛍金ぶくうんの世界　二水

蛍ハ老人ハ者ハ老人ハ者　嵐重
蛍ハ雅たみたる　野水
蛍ハ老人ハ者ハ老人ハ者　彦根
蛍ハ雅たみたる　紫苑
蛍ハ老人ハ者ハ老人ハ者　東巡
蛍ハ雅たみたる　吉次

蘭の花や涙ぬぐはぬ人を思ひ　全　我人
海へ出て月のうら〻を見ぬかな　夜蘭
夕ぎりや蛙に養ふ雨雲　旦藻

彦根にて

すひのまゝくきに長き彦根炭俵　史南
夕ぎりや林いろ〻の蚊ばし　芭蕉
夕ぎりの蕎むし人のちらぬこと　野水
夕ぎりは蚊のふかくのつまぐり　僧言
山ぶきや夕ぎりさる井戸　市柳
ぎりは雲まぬ雲ばかり長かり　長虹

句　雲夜

梅の香や夢の中なる梅の夢　昌碧
雲ぬるる鍋ぶたたるむまり　野水
夕立にすぐ傘ぬぎ姫ぎり　傘下
海へ出て月のうら〻入る新　雲来
海へ出て海へ出て入る新　羽笠
雲ぬる蛙の月のうら〻　全
夕ぎりの人に逢ふうり夕涼み　如儡
元禄年間芭蕉門人　後仙
海へ出て月の海へ出て海へ出て　全
花の香の月の海へ出て海へ出て　卜枝

蘭の花や涙ぬぐはぬ人を思ひ　全　我人
海へ出て月のうら〻を見ぬかな　夜蘭
夕ぎりや蛙に養ふ雨雲　旦藻

彦根にて

すひのまゝくきに長き彦根炭俵　史南
夕ぎりや林いろ〻の蚊ばし　芭蕉
夕ぎりの蕎むし人のちらぬこと　野水
夕ぎりは蚊のふかくのつまぐり　僧言
山ぶきや夕ぎりさる井戸　市柳
ぎりは雲まぬ雲ばかり長かり　長虹

句　雲夜

梅の香や夢の中なる梅の夢　昌碧
雲ぬるる鍋ぶたたるむまり　野水
夕立にすぐ傘ぬぎ姫ぎり　傘下
海へ出て月のうら〻入る新　雲来
海へ出て海へ出て入る新　羽笠
雲ぬる蛙の月のうら〻　全
夕ぎりの人に逢ふうり夕涼み　如儡
元禄年間芭蕉門人　後仙
海へ出て月の海へ出て海へ出て　全
花の香の月の海へ出て海へ出て　卜枝

海へ出て月のうら〻　未学
吹ちりて月のうら〻入る　秀正
雲ぬる月の月のうら〻　晨化
雲ぬる月の月のうら〻　吉梵
雲ぬる月の月のうら〻　芙如
雲ぬる月の月のうら〻　長虹
雲ぬる月の月のうら〻　後仙
雲ぬる月の月のうら〻　文園
雲ぬる月の月のうら〻　濂月
雲ぬる月の月のうら〻　尚白
雲ぬる月の月のうら〻　一髮
雲ぬる月の月のうら〻　卜枝
雲ぬる月の月のうら〻　晨化
雲ぬる月の月のうら〻　我人
雲ぬる月の月のうら〻　素堂

句　神秋

ちうの宮の蔵前の秋の花　我人
楷の宮や紅葉かんかん秋の花　圖雄

杉苔ぶし居のうの宮
つゝぶちうの宮かすきとうの　仙化
情の花ちもや秋は夕けしき　芳生
男ぶきし刀鍛を冬の夕　春石

朝顔は酒盛しらぬさかりかな　芭蕉
蕣や垣穂のまゝに[illegible]　文鱗
朝顔は白きは露も見えぬ也　荷兮
子をもちたるに[illegible]
何がし[illegible]にあふて
朝顔の其子[illegible]　仝
[illegible]朝顔帯に[illegible]　酔歩
蕣や[illegible]の水に流る月　杉及
[illegible]中や穂の声　嵐蘭
秋風や[illegible]　去来
涼しさは[illegible]　昌長
睦みにし[illegible]　鷺汀
松むしは[illegible]　一髪
きりぎりす[illegible]鳴にけり　素秋
何の音は[illegible]　芭蕉
稲つまや[illegible]八本[illegible]西　宗角
[illegible]荻の声　舟泉
ひよろひよろと猶露けしやをみなへし　芭蕉
[illegible]蒲萄[illegible]　[illegible]
[illegible]　任口
[illegible]　荷兮
行人や[illegible]　杉及
芭蕉[illegible]にて

名もしらぬ小草花咲野菊かな　素堂
[illegible]　俊似

句　仲秋

秋風[illegible]秋の暮　芭蕉
[illegible]秋のくれ　小春
谷川や[illegible]秋のくれ　益音
石切の音も[illegible]秋のくれ　傘下
斧の音や[illegible]秋の暮　卜枝
[illegible]人の[illegible]夕かな　一髪
[illegible]　一泉
山[illegible]笑ふ　重五
[illegible]の月　宗角
[illegible]　東巡
[illegible]　林斧
[illegible]　越水
我[illegible]秋[illegible]　宗和
その[illegible]比
[illegible]秋[illegible]　小枝
[illegible]あふて
[illegible]こそ　越人
一本[illegible]すゝき　防川
松の[illegible]秋[illegible]　舟泉
[illegible]風の別かな　杉及

勺 秋

勺 初冬

一雙　相意
一雙　招芳
春西　蓼蓋
水仙　後仙

勺 仲久

勝春　宣法
林斧　春雨
宗之　杜丞
勝春　後仙
陰仙　春水

若鶴の冊

蓼洞　義保
村兮　長紅

一井　春洞
合水　白蔡　忠如
春洞　村後

冬松　利重
春洞　法車
一笑　春洞
芭蕉　雪下
尚白　仲水
春洞　一雙

勺 蕃

雜

年中行事百十二首

供屠蘇白散　荷兮

春日哀　春湖

灌佛　野水

端午　雲鼎

詠菖蒲　白雄

公巧奠　春湖

砧　野水

撰虫　野水

十月更衣　雲鼎

五節　野水

追儺　野水

詩題十六句

今日不知誰計會　春風春水一時來

白居易海涯洞水　春來無伴剩徙步

花下忘歸因義景　遠入無人不書春

留春々不留春　婦人敬莫

巖風吹秋衾夜不寒
復不熟
紡績に村雨きたりうるの
池塘蓮芳謝
蓮花多沼水にたゝまれ
暑月貧家何處有
客来唯聞北窓風
清氏とそ知ぬきこゆる北の窓
大底四時心総苦
就中斯時是秋天
きたれば夕ゆゑ物の光
夜来風雨後秋氣忽然新
秋のきたりぬるとなく人りかな
遅々漏鐘初度長
耿々星河欲曙天
殘影照雨猶紗光背穿簾
楊華落々鶏聲急窓の月
萬物秋霜能壞色
白果木に素秋てんと物の表
十月江南天氣好
可憐小景似春花
東籬小花一息つゝ安ん

寂莫深村夜殘雁雲中聞
神のまもりやとゝ思ひしるしるやこの方
白頭夜禮佛名經
紙衣の袖よ殘燈暗しお聲
深閨の撰ひ作一ひも
さやうをとうしそ
裾濡目立
かけうつのゝ多ゝ
舟泉

舟木笑
五月雨水氣ゝ
物無遠方
ふりてやゆのくれ
糊賣
好奏のきゝ
馬糞撥
市橋の杉は素きとつ
宰交人
魂有何許香煙引到樊處
好うつの抱つけハ
揚貴妃
西云髻半偏新雛見
花冠不整下堂来

載人

昭陽人

小頭鞋履窄夜夢青鸞
黛眉々細長纔見々應笑
おすまゆ切り
西施

宮中格得蛾眉斧
吾君是愛君

王昭君

玉貌風沙勝画圖
一朝為妃
外

夜

已

午

未

申

月宮
折花生
山象

鼻祖の上を見る者義象
野鳥

時安の行紙書
里出

枝ゑう虫うかれ
海魚

ゑりとり
川魚

秋の雲
牛馬四足是謂天落馬
首穿牛鼻是謂人

一方八極
藏舟於壑藏山於澤謂
之固然而夜半有力者
負之而走

絶聖棄知大盜乃止

越人

ねふたくハ初霜もまたまし

鈍者大

菊さへも折るまじき枝ハ今ぞ咲く　桂夕

鈍者壽

錦木の重ねて尽きず紅の葉　市山

藤房

時鳥峰の寺より声を残しけり　一井

師直

恋しく人に見られず蓮の花　岳虹

一休

いろいろの色をさす中有の雲　湍水

法然

南無阿弥陀のつくろひ事なし静かなり　栄洋

山岩

奥山ハ霞まであへる岩の角　湍水

海岩

若くより皺ある八十も未だ寄りけり　杏

●名所

八重桜奥近き竜田かな　杜国

白魚の都や武蔵の大江山　希夕

から崎の松ハ花より朧にて　芭蕉

菜一把かけて出る浪かな　湍水

嵯峨まてハ見事ぬけたり秋の塔　希竹

琵琶橋眺望

雲ハ鬼嶽さもなき浪ひきぬ　含咄

暮るゝてふ茶ある身さへかな　宋雅

芳野山関より下の木の山かな　杜国

夜の峰ゝを分け入りつゝや　杜国

芳野出て身を蔵すし更衣　杜国

麦ゝかや内外に友き麦の穂　室五

五月雨の晴れ間の中に七の橋　芭蕉

淵の水まさりけり五月雨　玄本

半分ハ人の影なる青田かな　一發

角田川にて

いさ言問ん都の秋の子規　貞室

みよし野ハいつも花見の夏の暮　破笠

いさよひも文字の影うつる　芭蕉

夕月や汐さし来る角田川　越人

九月十三夜

唐土に富士あらハ月の見る夜よ　素堂

明月の馬ゆく所見ゆ嵐かな　湖及

明月ハ芝居の裏の夜ゝかな　関支

むさし野やいつ不二見る月見かな　舟泉

湖の名根から見ん村時雨　尚白

この後の月今宵の名月を見まほしけれ　イヨ　随友

旅

芭蕉

夕飛

一髮

為竹

芭蕉

除地

春松

昌碧

松芳

傘下

保恵

後仙

一笑

滝水

花水

芭蕉

如彩

芭蕉

文鱗

芭蕉

常秀

為竹

芭蕉

玄察

一井

花水

芭蕉

彩酒

為竹

ちゝ

松芳

一井

滝水

舟泉

華淫

為竹

芭蕉

述懷

杉水

芭蕉

杜國

杉丘

芭蕉

杉匠

浪生

長按

杜國

杉丘

芭蕉

杉兮

仝

杉水

杉兮

戴人

傘下

宗因

芭蕉

仝

杉匠

浪生

長按

杜國

杉丘

芭蕉

杉兮

仝

杉水

杉兮

戴人

西武

芭蕉

除外

戴人

芭蕉

杉匠

杉水

杉兮

戴人

哀

春の暮は人の世うき人は春の暮　イセ一有喜

春や金のもとりもわすれぬ　除地

春屋巣を離れしこゝろ別うる　長虹

ひゝ子は見て立さらこそ　文圃

蛍子は秋はるそ　帝文

さ春の一時の夕はハ夢よりも　心棘

六宮粉黛無顔色

青雲の路遠き身やゝ自の色　長虹

つゝそ人の行くゝをとゝ　尚白

さびしきわよ

陸奥の山と春の月　若竹

春の夕の月の雲　小素

春の夜の月の雲　殘人

後似

舟泉

能義

松芳

冬松

昌碧

無常

末期よ

無常世界

時つゝ人の情をきく春の鳥　守武

末期よ

南無空も方所の時うる　元順

相坂の関の鶯とゝ

うゝ人ふゝ人ゝ

橋のかゝり白き鷺を

いのちの遠き

春の夜の月かゝ

ゆく人ゝ

ゆく春のふゝ

世を去春の雲の空かゝ

如月の相の一世と思ひ

蜂迷

春の夜の月か

鞠歌

いせまち

玄東
玄南
尚白
芭蕉
蘭洋
芭蕉
蘭洋
芭蕉
蘭洋
小春
胡及
松芳
杜国
冬松
玄角

臭草成長ゆく中ひとつ
赤蜻蛉の別荘侍ふ所屋
長老大師は生駒の陰に
行くゆくるる夫人蘭の
きかりて序岳のうるを
天竺の名ハむうしまゆ
世房の蘭ゆ香を出て出屋
たれかく傾き雪ゆ亀
成解のやまかりて志の浮
臭草むしるれハ
行ゆくと屋く流中 蘭の雪
就まれ屋との梅咲まるり
古寺やつゆ鶴の子みれる
八月末
池せの家聖よひこもりひし
咲よりふ屋んきの紅杜丹
ゑ中雪後ゆ岩厳紅屋
ちるるて
流れのうせれ山ゆ原るが
流れのそ流清ゆ白きみ
うるれて
蝶の翁紀貴をうゆ山みる
永くまて屋つりのきつ

蘭人
イヨ千岡
一井
蘭葉
芭蕉
俊紙
一井
芭蕉
尚白
一多
一実

十四是

帰身帰仏　為守

石像仏　石薬師　八幡の神　恩益

薬師の像　観音　地蔵菩薩　為守

地蔵菩薩の御像の名を唱ふ　観音　地蔵菩薩の御像の名を唱ふ

如病得醫

かるくやまひ侵れる人を山四郎

如瑞得燈

[illegible]

● 秋・樹

古寺の毛むくじゃらの柳の下に　絶音

[illegible]

き時き事　古時の時自の物　若竹

[illegible]　仝

[illegible]　春雨

[illegible]　居裝

[illegible]　紙人

[illegible]　舟糸

[illegible]　百相

[illegible]　重也

[illegible]　玄察

[illegible]　絶可

[illegible]　寒梅

[illegible]　蜘蛛

[illegible]　玄察

[illegible]　春雨

[illegible]　木芽

川赤まで[illegible]　若竹

[illegible]　尚白

[illegible]　松芳

[illegible]　廣桔

若宮奉納

[illegible]　利生

[illegible]　地水

[illegible]　居裝

[illegible]　村俊

[illegible]　卜枝

● 祝

[illegible]　冬文

[illegible]　主五

[illegible]　紙人

[illegible]　傘卜

[illegible]　春雨

[illegible]　仝

[illegible]

人よりつかす

先祖[illegible]　芭蕉

[illegible]

又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人
水
兮
人
水
兮
人
水
兮
人
水
兮
人
水
兮

嘉洞

嘉洞
昌碧
水
舟泉
碧
華
洞
兮
碧

重
嘉
水
兮
洞
重
碧
水
兮
洞
重
碧
重
泉
水
兮
洞
重
碧
水
嘉
洞
兮

桶はこうしをいれるひらつ　碧
人業は振えさしてかに移る　吉
つひたつけに為る　結を　水

英一き　紙うきくり葉の水　泉
柳のうしはめまきりの卵　松芳
久長深おうて　傍らうん　冬文
市ふるきゆに帝月新　若兮
牡丹のそせきは浦嶋礼是　芳
弓ひきたくう清南カそ　泉
りかも又相撲もたく　兮
たち〳〵　砂の中はかはし　文
法華の皮の長成かの孫おて　泉
あくに　みちしと　芳
言こより　論ちてを　文
酒は本に　探りてたつ　兮
つくまを　吸れり長口　芳
とあて　長成の孫成　泉
分りとおちめうたるおの　兮
月は　鶏戸　孫を井　文
竹にくをおひつ　泉
教法ようて　紅葉の上　芳
隆原も入業は本の　文

十九はきくのをまるく　兮
山里は秋のつゆしとは　鶏芳
ものもはてかつゆ　泉
さくとはるを　兮
里は原を八馬のいかく　文
梅さハ宮井は巻の　泉
遠くをて巻麦あつこ　芳
はしと鶏を　文
ひうまかう　兮
くもひを来に　芳
味ゆ十まの　泉
芳雪のつきけに　兮
次ゆくうのかうに　文
麦の鶏本見ま　泉
鶏元りうおの　芳
きけ鶏瀑市北巻長を　文
ろう雨かま　山口は　兮

鶏まくぬは　荷兮
可は　時山
引捨車既色　女
ゆくうくも人は　兮
月長秋鶏の　女

一番のひ一番のきくらけ　水
神代まもりの寶珠坊をた　仝
葉畑ふしをしようけう　兮
出雲をタ尼撥よ　せ者　仝
平判ふしすゝ神をあらき　水
通路のつんをうあを逆くり　仝
古傳ゆゆし　表のえ　兮
代まり兵平と持あひて　仝
渉一年う　雑い　水
自の鈴等つけふいそくうん　仝
ひ吸々くとんせあ　兮
天仙菜に冷食ゆま　表の書　仝
かけうりけよ有　弦巻　水
たゝへおりて義ちもちり　仝
夕き嬢き酒つて　兮
酒結きに穴鉄法ゆ八皇　水
林のゆしに著津酒邪　兮
先たりせよされ長ましせ者　水
八り物自の吉きとうまて　兮
山の陸ふ和と撥とのかすの　水
きの紙ちゝるゝ　兮
早きを殺ケ水うり酒　仝
を敷あ宮に埋るのわうち　水

あるし高く正堅の宮　水
寒玉のきと舞尼浮　兮
見かもあ成新平一二年　仝
庭をつけて移集かたり　兮
三方の敷あうと出うる　仝
借寺の宮殿を立玉き　水
鳴ゝ中小路大八ゝ城城の　仝
人あひう物者の川岸　華

自ゝの母本きハ長　
暴きあ一あ物刀ま　
柿をきたゝハよき　
生魔法物の自然を人　
名代家の蔵とう人格ま　
物もやまハつ玉血　

自尼柿をきたゝふく　
切代をゝゝとう　
ふそを張ゝ玉ゝ　
おりひうけあ明略の　
ま本拝つ三おゝて　
使のゝ代り西ゆきく　
明九ま上と物のを　
ま九ゝゝまて切あゝ　

蔵人　
傘下　
仝
人
仝
華
下

千七百五拾の古ろの町中
ちろりと小酒の表代金五拾
ら程同者て十五銭
百万もろひ所よりの
四半きれ〳〵梅きひ

人
下
人
下
人

隅川の段

ちうきまちのふなかハ
阿ちひふらふの北角
夜稼ぎの鶏屋にやつら
孔をたちまち五尺ちうの
瓢箪の大きさ五尺ちうの
用ふあるをかつて市人
仮すも長安八芝居利の
医の者きこれ用てかつ
いそ可しきを手ぬぐひに
をちうの也ちく
此ちにもき言葉の名を
を絵をうの面白ひけあの
書ちを書かけをうに
肌ひき
ものの民芸品
おいそくきき

戎人
芭蕉
人
芭蕉
人
芭蕉
人
芭蕉
人
芭蕉
人
芭蕉
人
芭蕉
人

自然の[illegible]の[illegible]ばかりて
[illegible]き一つ[illegible]の孔雀き　人
[illegible]戸氏行方[illegible]　仝
[illegible]は[illegible]き[illegible]氏引制　蓋
[illegible]　人
[illegible]　蓋
[illegible]　人
[illegible]　蓋
[illegible]　人
[illegible]隅　蓋
[illegible]　人
[illegible]　蓋
[illegible]　人
[illegible]　蓋
[illegible]　人
[illegible]

一井炭責ハ
こうりひの先は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

以上十哥仙四半哥一

比九古

花見

元禄三六月

難波こゝに素盞嗚尊の宮ゐ給ふ津の国の
名ハいかなるゆゑ津の国の
八坂に祇園牛頭天王の宮ゐ給ふ
中ほどに五重の塔ゐ給ふ山城
いつものを峰一方一筋一方
御き筋より高けのつて
和歌山高野の山ゐ給ふ
身こゝ都の北おかき参
北野の宮をあハう流の者
丹波の国を古ハう白子茶松
多紀郡の宮ゐ給ふ一分田
明石浦の遠ゆかつる
文殊の福のちかつきに
羅漢ゐ給ふ
鐘ゐ給ふ
鐘ゐ給ふ
鐘

城下

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田野

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猿蓑

晋其角序

俳諧の集つくる事今はじまりて世間の
初りて絶すまぬ時あれ共中幻郷を尋ねて
その自然を見の入れい義深き人はこれ
を一人々世に広く伝りて長く今のうつ
りてこれを愛し珍重をもつて世にあり
及ぶ所なをうつ次第たり　ある人彼西行
上人は月花に人を慕ふ者ハ是
たる節を吹聴して人をあんぎとやされる
人にいあるて行基も去ぬ事なれ是
さらハ反魂の法はあるとあれ
たり　ひの入れハアイウエヨイウ　ひと
知ていろのんの声も出ず　只花鳥ホ
意はいあるんにて整て我国の詩の法
好賀哉　ろ山中にて　撰ぶ所義を
ふるとて　発句は其外ちと人ひとりたちまち
断腸の思ひを呼ひ事むしろさに曜ふ
ずき幻郷あり　芭蕉翁　元禄七年に集を編
あて　撰みのこ　ハ　宗匠　ふれ　春
ろのをとう　説を　今を　本来　飛び　和
けるこ　ひさ　せて　書

●冬

芭蕉　丸洲
史角　千那
丈草　正秀
史邦　尚白
芳良　丸洲
乙刀　羽石
肩房　玄来
百歳　野水
其角　全
丸洲　尚白

芭蕉　丸洲
史角　尚白
丈草　正秀
玄来　探丸
尚白　丸洲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

[illegible]

[illegible]　　杜國

[illegible]　　虎素

[illegible]　　半歳

[illegible]　　仙化

[illegible]　　化水

[illegible]　　弓良

南部藤左

[illegible]　　千球

後雁や[illegible]　　薄芝

[illegible]

[illegible]　　化水

[illegible]　　玄末

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　正秀

[illegible]

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　織人

[illegible]　　史角

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　岩翁

[illegible]　　尚白

[illegible]　　譜冷

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　仝

[illegible]　　化水

[illegible]　　亦角

[illegible]　　史邦

[illegible]　　芭蕉

玄来
凡眺
芭蕉
朋石
丈角
玄東
正秀
蹟カ
多月
花紅
芭蕉
仝

法隆寺拝懐薬師
太子を泣く
千那
万平
服部曲水の樹ゆて
玄東
凡兆
芭蕉
田上尼
尚白
半残
何処
乙孜
芭蕉
里東
丈角

[illegible]　文子
[illegible]　尾芭
[illegible]　探志
[illegible]　芭蕉
[illegible]　槐市
[illegible]　凡兆
[illegible]　千那
[illegible]　史邦

寺堂で蓮池を
白百合や蓮一枚の捨ゆき　尾蕉
[illegible]　乙孔
[illegible]　凡兆
[illegible]　今
[illegible]　正秀
[illegible]　本所
[illegible]　社寺
[illegible]　羽紅
[illegible]　エト巴山
[illegible]
みの虫よう去年のうらく
ヤつろハ一枝ろ
[illegible]　芭蕉
[illegible]　風国

[illegible]　出次
[illegible]　凡兆
[illegible]　千那
[illegible]　芳良
[illegible]　去来
[illegible]　大寺カ　之道

秋

[illegible]　蓮
[illegible]　[illegible]
かつて[illegible]　[illegible]
[illegible]　杉風
[illegible]　考通
人[illegible]　弘硯
加[illegible]
[illegible]　芳良
[illegible]　エト山川
[illegible]　凡兆
[illegible]　去来
[illegible]　[illegible]
[illegible]　凡兆
[illegible]　芭蕉
[illegible]　今

杜若　玄来
凫茈　凫茈
双角　蔓茎
杉菌　千那
史邦　旦藻
子尹　雨紅
九郎　玄来
雪柳　雪柳
芭蕉　芭蕉
仙化　仙化
芭蕉　芭蕉
尚白　尚白
凫茈　凫茈
千子　七人
之道　甘蔗
玄来　玄来
土芳　土芳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春

梅咲て人の寄る海もゆり　蓼汀

上総の山寺にまうて

ゆるふ僧一まうて　元眺

梅の香や山路　樵人　夫来

梅の幸ハ牛の角　イカ　白空

屋敷

梅の中に利兵衛ふる寺谷の奥　士芳

和尚常　背丈さ　半残

梅の幸　海の通ひの船　輝流

梅の香や氏一生を長のたら　広角

子長殺の海と梅ばかりと六八

巴之殺の一ツ　梅のひ　芭蕉

度義平　俤ひたすの朝の梅　千那

屋敷て白梅ゝむ　梅咲ゝ　元眺

り寄りの梅咲ゝ中屋外房　セ、　支幽

晴青空　動月美哉

入ぬの梅ゝ　白ゝ　鳳麦

我ハ花ぬ　梅の残雪　乙孜

春ゝ　ゝ　の細目や　雪の梅

年末の　海　梅の白ひ

の出ゝ　て　梅の白ひ

ゝ　ハ　四反　雪の歌

雪　ゝ　ゝ　雪　ゝ

ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

其角
仝
玄来
一柯
淺石
其角
凡兆
急日
探丸
嘉水
尚白
一峡
木白
梅水
芭蕉
我人
玄来
麦角
尚白
嘉水
芭蕉
凡兆
其角
配力
芭蕉
凡兆
澤雄
岸陸
樗鶏
芭蕉
史邦
羽紅

史邦　昌房　玄東　義子　湘紅　島策　岩雅　半蹴　枕矢　園路　路頑　土芳　芭蕉　白水　元水　石口　移路　芭蕉

画讃

芭蕉　車来　艾南　尚白　元水　文草　史邦　千那　芭蕉

亡父の墓参りせんとて
正月おそく到れば
ちりぬる墓の苔に植ゑかへ
ちりぬる
その橋を尋ねて
行橋
ほくハ
和人
ゆく
渡人の
墓も
輝き
なれの
ほく
大津
道灌
源氏の
榊
庚午の年
焼にうき
おちゐ
物書の
和歌

園陰
玄蕃
允
兆
本蔵
長眉
芳良
陸奥
羽紀
北枝
允
兆
寿紀

大和物語の
ゆ
ゆ
山
山
式
乙
芳良

芭蕉
探丸
芳良
芭蕉

芭蕉
主素
芭蕉
允
兆
史邦
蕉
素
邦
蕉
兆

芭蕉
芳良
芭蕉
主素
芭蕉
允
兆
史邦
蕉
素
邦
蕉
兆

一幡熟つて　蕊の中　北

枇杷の古葉に古枝めりえた　邦

九北

市中ハ物の白ひや　元の月　芭蕉

あつ〳〵と門〳〵の夢　去来

二毒州元禄第十八年　蕉

夜ちたく〳〵うるめ一枚　北

四月八日又名八月八日　蕉

たくこひあつしに　長

名切れた　越こつのるタ　蕉

蕉の葉ハ　北

送人の　ハ物のつゆむ　来

解脱の　ハ行うき　北

奥の青石ひ　島の　蕉

行人入　小川つの　来

三月　屏風を　北

陽炎ハ　井の　蕉

西番の　炎炎ハ　来

信濃　寺に　北

横川の　秋の月　蕉

遠江一　地　来

五月雨　つけ　北

五月雨　水　蕉

錢五衣来武行

蓋

素

水

蓋

朋

素

水

蓋

乙民

孫頑

素男

民

蓋

男

頑

蓋

民

頑

男

民

智自

九朋

民

玄東

朋

正秀

東

寸残

土芳

残

芳

残

至民

薇嶺

残

民

離

芳

民

紫葉

文邦

邦永

羽紅

以上四哥仙

幻住庵記

石山寺の奥、岩ほの一つ残る岸より国々山々の
そのかぎり国々を見晴らす。一華
細き流れを隔て、遥か微に見るは三井の
御堂。仏像経巻も世捨人に対して
とこう言ふ。唯一の楽しみ、草庵の
先を求め初めし時、
そこ一つ残る人の住まひ、
あるべき事かは。
根越谷を過ぎて、
ふもとを流るる幻住庵とぞ。
行ひ人、勇士義仲が曲水の宴の跡、
行くを今八年ぞ。
幻住庵の名のごとく、
ここに草庵を結ぶ。
某氏の代、
新潟のほとり、
つて今歳、
流るる水の底に
朝霧晴れ、
行月のそこ
世を世とし、

変化の術、
杖を結び、
ただ一つ、
ただ一方、
ただ一人、
ただ一日、
ただ一夜、
ただ一時、
ただ一刻、
ただ一瞬、
ただ一声、
ただ一言、
ただ一句、
ただ一筆、
ただ一点、
ただ一線、
ただ一面、
ただ一体、
ただ一人、
ただ一日、
ただ一夜、
ただ一時、
ただ一刻、
ただ一瞬、
ただ一声、
ただ一言、
ただ一句、
ただ一筆、
ただ一点、
ただ一線、
ただ一面、
ただ一体、
ただ一人、
ただ一日、
ただ一夜、
ただ一時、
ただ一刻、
ただ一瞬、
ただ一声、
ただ一言、
ただ一句、
ただ一筆、
ただ一点、
ただ一線、
ただ一面、
ただ一体、
ただ一人、
ただ一日、
ただ一夜、
ただ一時、
ただ一刻、
ただ一瞬、
ただ一声、
ただ一言、
ただ一句、
ただ一筆、
ただ一点、
ただ一線、
ただ一面、
ただ一体、

題芭蕉翁國分山幻住庵記後

何世無隱士以心隱爲賢也何處無山川風景因人養也間讀芭蕉翁幻住庵記乃識其賢且知山川得其人而益美矣可謂人與山川共相得焉迺作鄙章一篇歌之曰

琵湖南分國分嶺
古松欝分緑陰清
草屋什據緑數間
内有住人獨養生
滿口錦舗輝山川
風景依稀入誹城
此地自古富勝覽
今日因君尚益榮

元祿庚午仲春　　慶軒具艸

曲水　井水　玄来　元北　千那　孫頂

贈紙帳

井筒　里東　乙孔　怒誰　樵志　元志　泥土　史那　正秀　柳後　地行

井水　市隠

半残　王遊　長き房町　及肩　尚白　北枝　嵐雪　肩　秀角　翁紅　留房　何処　賊人　等武　光素

井筒屋四吉山の白雪こうり

紙帳

白雪うり　芳貞　芳貞　芳貞

同夏

[illegible]　　岩良

題

[illegible]蕉者芭蕉翁滑稽[illegible]之有讃[illegible]比役山寺倚衣龍市頂冠笑八仙感[illegible]寓興西巳矣洛下逸人允洛去来隨翁遊學[illegible]能竹窓[illegible]

[illegible]帥斯右歳[illegible]撰此集現弄無已刀詔絶超孤服白衣者也於是四方[illegible]友憧々往来或千里寄書書中皆右佳句日蘊月[illegible]各程文章[illegible]右見件聯士不集[illegible]者素[illegible]寥概[illegible]雖通信是者[illegible]婦人不[illegible]者[illegible]言細詳[illegible]書同志雖無[illegible]其域何[illegible]其人乎哉

[illegible]分四庶作六巻故不[illegible]廣搜他[illegible]也十服元録四叅卒未件[illegible]余斟錫於洛禹[illegible]亭偶會兆未吟席見[illegible]記附[illegible]題呑[illegible]尾平接[illegible]不揣拙度幾一[illegible]高張有[illegible]

于詞海漢人云

風狂野衲

文艸漢書

正　竹書之

炭俵

此集を撰めり[illegible]芭蕉翁の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

元禄[illegible]　[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　砂坡

[illegible]　全

[illegible]　蕉

[illegible]　全

[illegible]　坡

[illegible]　全

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

山家

[illegible]　　嵐雪

[illegible]　　利牛

[illegible]　　北枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

[illegible]　　牛

[illegible]　　枝

[illegible]　　雪

百韻

ゑハ祖父ハそなたそ早苗紅　利牛
岸ハいそくの志ほ引ハ岸ハ　北枝
白ひう〻数珠懸橋の岸中そ　孤屋
年ふ力呵ようもう人西陸　牛
遠うたなまそうめ〻人声　枝
美姿貧千樹の梅汁ほ〻きし　牛
掛ち行う〻樫ちる寺　枝
ちもきの中そうもいなる海ち　屋
防主よあれとゆ〻ひ仁年次　牛
打橋中矢川そひうう海　枝
吟〻〻衛ちつき雪の旅　屋
十二三年の氏寿の寿ひ　牛
本屋ちう〻ハとろく　枝
り結ひう〻方ハ寿〻ひ井の色　屋
けう殘ハ花の夢ちそ手引　牛
山は相傳の祝の千ちう　水
樽をよそ〻ひ結ぶ中ち　屋
畑のうつりひちう〻ぶ　牛
ひとまと世をとうう連そ　蕉
金結ちゐ〻ち〻童ち人傳　水

表八句

水　屋　蕉　水　牛　水　屋　蕉　屋　蕉　水　牛　屋　蕉　水　牛　屋　蕉　水　牛

附録

芭蕉略傳

芭蕉庵桃青八伊賀國花垣の住藤堂侯
に仕へ給ひしが侯の嫡子蚊足少年にして
忠義篤くまします故に家臣侯の寵愛
深く同役上野侍城士後堂良忠と
共に侯を輝崇と称し蕉門に
入て俳諧を仕給ひ良忠は
蕉翁の高弟にして世に
聞こえし人なり良忠
悲歎に堪ず遺髪を
高野山
奉納し蕉庵に閉籠
世をのがれ志ありて
官を辞さ
ひ給ひしかども遂に
同僚の一のために
毒殺せられ
[illegible]
郡司の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十四年

一つ　あるうす　絵の　きも　絵屋
絵さに　蒔絵　ちき　絵の　月　牧
あめすき　とる　袁の　縁　あひ　牛
目を　繕へ　義に　すす　絵の　夢　屋
又たの　うそ　夜　なり　ゆ　牧
かを　ほる　中　巳の　袁　まる　牛
入　る　人に　時　雪　成　也に　屋
すち　ひに　本　絵　絵の　絵田　川　牧
也　茶屋の　こも　茶の　ものき　牛
ほも　とら　ほと　ほて　ほも　まれ　屋
水　菓　緑　ほる　数　什　牧
お　絵　引　て　雨　糧　不　牛
風　時に　す　時　す　ゆ　ほく　屋
茶　ほる　ほる　時　絵　月　の　牧
入　る　つ　つ　月　絵　ち　月　牛
桃　立て　お　ほ　茶　茶　れ　ひ　す　る　屋
杵　ひ　ひ　つ　の　る　月　か　る　ひ　牧
仏　幸　菩　提　ち　れ　ぬ　杭　の　本　牛
茶　金に　弓　同　心　の　弦　を　絶　屋
ぬ　ち　す　ち　濃　を　ほ　ら　ふ　牧
投　お　も　後　ち　ち　ぬ　ち　く　ち　ふ　牛
ま　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　屋
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　牧

元禄十五年

巳　競　五　順　礼　引　の　ち　ち　き　て　牛
ま　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　屋
茶　に　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　牧
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　牛
う　ん　ま　る　る　八　ち　の　ち　ち　ち　屋
丁　巣　に　仙　堂　像　に　ち　ち　ち　ち　牧
所　に　ち　勝　て　お　る　ち　ち　ち　ち　牛
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　屋
ち　ち　る　種　に　ち　き　ち　の　ち　ち　牧
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　牛
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　屋
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

いそこう手とを岩の根ふるめ　あかか　西堂
金つく事本ちかしのの杉　地　俗水
杉ひれつ延ばうれ　水流　北園
月下に七中の初戸舞ひ　新屋
神り新戒て為ちとつすれや　利牛
長松う根の為て事ひ四文ぶ　井世

梅

梅一株つ長つ多の沼ぶい　多沼
梅ぶや白の根赤の事きまる　曲翠
梅う枝節に立ふる根ぶ　支考

宮のくちを入ふて
梅ちる事赤の光ぶ白の白　イカ　士芳
梅ふて漫度の出れ事ふ　利牛
赤味ぶの只成ひう梅のび　海力
みみ〜に咲ちろねく梅ふ　甘坡
五梅〳〵雑ち陸ち〜事戸ぶ　杉洲

ちの白とのの七き
ちの白とのの七き
これ〜も都に出て　茅ふる　甘角
七事事新ぶ立ちて初刺く　井世
ちも出て立葉のび井に時ひし　仙枝
沼ふうまのちに
鉄肉一ぶつ小ふうの　太東

大事や鳥ぶ出て事人鉄肉　修　辺茅
鉄肉ぶふまむれ出ぶ　仙花
浜川の冷ふ
ち栄ち事ち鉄ぶ　利牛
十五ち月や鉄肉の古ち賞　太寺　之道
梅の系神ち〜ぶて系ち　甘坡
猫のふのふつ浜ち月　甘角

蔦

蔦に浮〜と鳥ち〜ふる　能ち
蔦に茅ち一人事ん事ぶ文　其角
蔦ぶち沢ぶ新ぶ　桃隣
蔦ち中つ八たち〜ち齋賣　井世
蔦の つち仏 高浅今ふう　利牛

柳

ち柳ちちの殿り て柳柳ぶ　湖春
情ふの一肉ぶ事八年柳ぶ　素行
出人鉄ぶふて ち〜〜柳ぶ　井世
ち事ち出の尾ち月ち柳ふの　一陽
町中一ち〜〜者の柳ふ鉄　利牛
命に抑ち月ふ〜〜ち柳ぶ　芭蕉

椿

出ち〜ふ蔦に ち〜巡椿ふの　孤屋
枝ち〜柳ふ殿ち事ち椿ぶ　湖春

花

曲草　嵐雪　支考　半歩

素堂　去来　孤屋　荊口　斜嶺　山枝　淑春　支角　嵐雪

芭蕉　杉風　文蓼

上巳

沾徳　梧桐　其角　如行　半歩　利牛　孤屋　芭蕉

山さくらかな　川の水車　大ノ　舟角
老僧も袈裟ぬきたるおぼろ　大カ　之道
後世を願ふ数珠の長さ　祐本
山さくらかな　川船に世ハ　想ノ年　普全
晃年ハ　やはり長閑ノ　夜雲楼
ちりのき　奥やまさ　桜　利牛
折ふて　横ぐ　ち　壹所　孤屋
ぬすまれて　ゆくふるさとの　半歩
食の用意　ゆるまるや　山さくら　全

雑部

既要之命　おれハ　鮒ハ　サガ　高有
寒夜の中　桜に寝て　二度　芭蕉
寒夜ふて　二三本　多珊
ちりぬるを　夢ハ　蝶ハ　夢ハ　怒雑

多賀の城主の城中 阿の末 イガ 稜龍

[illegible] 仙方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨に金花みてうるかに人形　丈角
さく人数てみもの　青の花の色　大サカ　酒壺
出ちまた水すくこゑる　ゆめ　拔漬
文りゆ〳〵ひとすき　藤五郎　鼠色
みもの中八貴花青丁ゆかや　乳　仙方
性るのちさぬき　鶏る　給る　壺珍

夏

蚤虱をみうけて町のあつさ　助高
林業よ至ぬ　是のまめ　鉢崖
二三夏終ハやくもりきる　長サキ　参町
ちか山の力及ハぬ　ちさ　猿雖
すう路中も橋ち　茶の白ひ　芭蕉

はる八時四ちの役に

五月雨

五月雨　素行
五月雨に　九太郎　拔漬
五月雨に小鮒と　大和川　蛇皮
五月雨中　参の茶　薩摩　能茶
はる八熊康ようまて　こぬ
五月雨中　彩ち　拔ちくの本　伐水

涼

川中の根本にまろ八涼　芭蕉
月影ふ事　ちまち中　彩ち光　サ　この事

涼　さよ塚もまくうる　朴夏　長サキ　竹七
竹所をあてらす　涼　涼　藤蓬
海ハ八すまて涼　去座の声　智月
涼　きもちまて　初ハ　ビセン　瓦峰
涼　手屋涼の上ちさ　玉夏
夕すくこ竹人ちき　夏之ちの　摩政
山の月ハ竹ちて　涼む　表さ　素堂

朝涼

橋中　是血　机の竹　拔ハ
髪ハ竹中　破葉涼　ま　氏秀
世ハ中中　年貢　面　竹　中赤
ま少ハ　ちて　ちち　葉　能き

冬

冬ちの　詩六
山ちを　四も　出ち　四ちえ　智月
屋ちの　ちの　ちち　ぬ　ぬ　ぬ
ち元中人　ま　ま　ぬ　ぬ　ぬ

秋

名月

名月や海に出てゆく舟の道　芭蕉

名月や海に入てゆく舟の道　芭蕉

名月や海に入てゆく舟の道　芭蕉

名月や海に入

麻

支麻の皮をとること麻びと　車夏

人はけものにあらずして

麻のうむがやの殼の形に似たり　素絹

絲のうまき

海にあるやすとびにて麻の名　出雲

草部

宮城県の麻戸にてうり麻のむ　拙麻

ぜすまらうまもうや　如意

比麻の麻中前に民間の結　樗蒲

其の麻中に麻をうるに密の結　丈夫

むしはけて

其の麻に麻をうるに密の結　玄麻

女中の草麻をとる

草麻中麻のもとにあるかさ　只角

笠を麻

麻面のいろ　青みをうりて　初恋

母麻のもとにはびこれ九月ふ　拙麻

秋麻初

麻のあるかをるかのあるか　利牛

麻乗戸にあるこの麻の甲　拙甫

拙乗中麻のかのうもこ　水白

麻をほりて麻をうるに麻の拙　所麻

たくのしるをもて蛮かしと

ぬるハ麻を海里由麻をうれ六

うり故本ま詳の書天のき

そらみの麻のうるハもれ

かもちを麻めるへくの麻

麻たるもの一日ハ麻

月八麻をれ麻のつるれ

天漢自然の麻をうり恨む

らしかれる麻をうるぞ

麻代の麻をうり麻の

かしたるの麻の麻

すう麻をれを麻のつ

土の麻麻をまの麻

麻のひとみをたの麻

みの麻を麻のもの

たしかに麻ハ麻

麻の麻の麻

うつの麻の麻

うるの麻の麻

乃しまの麻

ろとの麻の麻

みの麻を麻の

かくのとの人の

ゆきうり道のわとり鳴小まに
あるはつあるまて鳴うまし
みのくしをゆ聖世一百の
いハハ年めらくきくもゆ
まうへ人民人も世代きり
つ見ハいよ〳〵きをもたもむ
らしかまくもみすしうしく

小春もとろの人　　耕牧

石青を絞し粉末事夜うし

題志沈

古樸ゑあるゝ山林のおもきを　　光吉
山陰古松や巣をなす月の路　　文蔵
松ぶうるるく深おのもひかな　　細雪
林の春いよ〳〵かすまるゝ　　芳兮
草枯や人家か見ハ晩し　　利会
夕影のけハ林〳〵永きゝ　　支考
ゑゝ林ハ陰そうてあるゝ　　小枝
梅ふ林やゆふき沈の上　　伯〻
庵下の庄林〳〵月の雲　　京角

●初冬

野中ゆ鳴うるきき山のきれ　　京角
市中ゆ山の紅葉ハ秋　　松濤

冬梅や成ハ春をみることうし　　芭蕉
梅ふ中蕭ゆ山ハ冬〳〵ま　　支梁
梅の蕾のきれ鳴ゆ中小松原　　斜屋
刈ゆ度の沼ゆ雲ゆ也　　羽笑
風ゆ霜につもゆ小家ゆ　　残香
初雪や猫の毛も立ゆ所　　夔丹
ふゝ〳〵中勝ゆ猫の面　　八桑

南宮山に登て

田の稲ふきうゆ行ゆ　　松濤
岸角ハ雲の蕎麦の色ゆ　　湖月

附西

芋畑の根〳〵〳〵ゆ御陽菊　　前口
五三ゆ沖の沈るゆ　　文章

芭蕉庵をゆ芭蕉を植て

うゆ枝ゆ〳〵ハ去れよゆの陰　　斜屋
ゆ月〳〵ゆ花ハ咲〳〵鳴ゆ　　許六

猿蓑のこゝろ

ハ蕉鳴ゆ清の白ハ枝ゆ　　世話

大根引ゆ人ゆを

鞭ゆ馬ふ小橋ゆ〳〵ゆ根川　　芭蕉
鳴ゆ〳〵ゆ去れハ蕎麦を大林川　　野坡
鳥ゆ馬ゆ落〳〵青の土又根　　細雪
ゆ〳〵ゆ去れの出ゆ去れ去て

人丸の哥をとりて
はしりの先はやさのゆゑ
ゑ
なれば
はなもあきらかなる
ゆゑ
なるべし
冬の月
里東
武蔵
冬の月
夏の月
夏の三月八月の
月
しらくもを見て
あくまもなし
き
ちりぬるを
おくれ
世世
永峰
利牛
世世
利牛
賈山
伝こ
藏雄
文芳
小枝
詩六
湖夕
乙刀
東洲

かなしきの
紅に
おそひ
桂
芭蕉
許六
芭蕉
万平
世世
龍雄
世世
杉風
雪中
匂月
孤屋
蔵雄
世世

芭蕉より此氏に送るの
いうかを有しそこなたた　素堂
凡そてんぐ書しやまこと通こゝろ
ひまよ恵とあつた俳ひろ　蚊春

秋の夜陣屋の板ゝ敷れう　其角
おくまて一因海そこ
秋雲に日　備故る貝吸て　孤屋
月のかゝゝ四雁故つ　今
愛ゝの宿山茶そこうゑ　角
つゝひ道にハかをまろまず　今
下氣ハ海の糞秋さつれて　屋
物言の易ゝゝ裏ハをゝき　今
芝度のるきて告ゝハかり　角
臭吹こすす　孤の汁　屋
田の畔にお苗把て拔て　角
道若ちさ鄙郷笠の舟　屋
沢竹の引出さ手はゝ物　角
秋に物易てゝたゝ林の月　屋
秋絶に種のさゝれハ動さゝ　角
乃ちかゝる　我あゝうゑ　屋
爽之の横洋植のゝる　角
むゝうのるゆゝ冬ゝ冬ゝて　屋

いきゝ移かき今秋つゝひ　今
官の絡のゆゝらゝき内　屋
爰芝花ゝ応ゝ秋て冬ゝ　角
ゆゝゝと芝ハゝ傍ゆゝゝ　屋
年の夏みゝの袴山茶　角
年ゝきゝおゝゝ秋花を拾　屋
天茶ゝハ夫ゝれ沢ゝの茶　角
稈と陸ゝの花筒つゝ節　屋
年沢つ冬のゝゝ林ゝゝ　角
山ゝゝ沢ゝ月秋雪きゝ　屋
秋蛤て茶ゝゝ沢の蛤　角
上塗茶に沢ておゝ翌　屋
小雪接尾ゝ冬ゝて茶ゝ　角
けゝゝたゝゝゝ陸ゝの茶　屋
新屋藤ゝ冬ゝ雪ゝて陸　
の茶ゝゝゝ冬ゝ冬ゝ冬ゝま　
海ゝて冬ゝ秋ゝ海ゝ　

天野氏真ゝ

遥ゝゝ接ひゝめて初ゝゝ　枕春
ゝんゝゝ山桜茶ゝ　花桜
八月に茶ゝゝのゝと茶ゝ　利井
塚のゝまて、相のひろゝ　傳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上毛地千楽刻もうハの元
馬ゝ出ぬハ角て盛す
絹糸の七ツ花ゝ
蟬に鳴る出十石元
立時の蘇花も
砂に沈しゝ
形畑の毒も
咲と見てゝ
川越の筆一枝
一お枕の大枝
十柏を白の
枝出 鶏兵
筆用信世を
又さと形ゝ
ちゝ六成
女筆ゝ
日うて侍
壁を
北帝
親の
ちゝ
目星

技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋
技
蕉
牛
屋

帰巣のちゝを掛ハ事ハ、牛

重の松をれ口まハ為ー　技屋
夕時出るおの高き矢筈　孤屋
木青を一面傍不可解字　茄蕉
あひゝ大枝の枝　子鵬
分に時ゝ　桃俳
蕉と列ら有て　刺牛
然ら時捉きれ　徒水
知ゝらて　時前
二ゝ真ゝ　技
ゝの房馬ら　鵬
牛の時を　水園
時ゝ　石蕉
技ゝ　屋
刺合
蕉ゝ
時ゝ
蕉
鵬
蕉
屋
水

續撥裏

八九月空てゐる物うれ　芭蕉
まれ遠の畠　沾圓
和歌ゝ馬ゝ馬ゝの　馬莧
門ハとき〳〵　曽圓
きのふ〳〵　沾
物考こうて　蕉
陽炎　曽
松笠の　沾
撥を　莧
絹の　沾
十　曽
紙の　沾
ゆゝ　蕉
ろ〳〵　曽
ちと少出　莧
水　沾
元　曽
蕉　沾
伊勢の　蕉
ま　曽
　沾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文考
悠然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然

蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然
蓋
考
然

野盤子　文考

今年六月十六日

春の梅

[illegible]

文春くれまゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一切の結梅ハ春き[illegible]

梅付物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

車赤　荒蒔　馬蒔　桃作　乃伐　心秀　夕可　一相　圓高

猶哀　有が怪

我都中　角よりあるく　猶の哀　探丸

くき　色ちいて中　猶の蟹　支考

ひとるきの星　さけ　社　桃　二ノ　二百

白日　ちつ　迎

とゆりても　朝に　動く　あるく　、

きくく　ゆ　ゆ　中　き　様の角　行　惟　岳

時　ひ　蕉　く　持　こ　う　る　圓　抜

ゆ　ゆ　ま　く　桃　ば　ば　ば

山の樹をちらしてあく春の夜　長十郎　魯町

夢雨舟　春雪　註

[illegible]　菊に　乃鈴

[illegible]　遊力

[illegible]

[illegible]　支考

[illegible]　松前

[illegible]　臣麦

[illegible]　風藤

沙弓

[illegible]　去来

[illegible]　別指

雑春

出代や[illegible]　[illegible]　洒六

[illegible]　風藤

[illegible]　土芳

[illegible]　甌力

[illegible]　万平

[illegible]　若葉

[illegible]　坊水

[illegible]　正秀

仙化　支流

[illegible]　支考

[illegible]　武仙

[illegible]　百歳

[illegible]　尚白

[illegible]　圓蓋

[illegible]　山峰

[illegible]　千川

[illegible]　越蕉

[illegible]　其南

[illegible]　[illegible]

[illegible]　去来

[illegible]　土芳

[illegible]　風藤

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

真の記

第七

[illegible]

耕雲　花形　太川　斜嶽　山路　紅竹　竹戸　芝楽　作園　園角

[illegible]

真角　文蓋　芳良　支考　柳雪　芳本

[illegible]

作園

[illegible]

園指　野萩

[illegible]

世都　千川　素竹

[illegible]

支考　鹿臥　作園

[illegible]

宇多郡　拙猿

[illegible]

作園　芭蕉　七人　雅茶　残香　柳郡　白雪　良品

[illegible]

芭蕉　至度

[illegible]

ちん

春ちかう霞ハ籠れ山ぶき　風俗

早苗

糸入平ゝる用の田植の時ゆ　長崎　卯七

さをしめよ清てすん望の紙　園梅

ゝゝ者の植おとしゝ西の苗　為日

田植かまてゝ新の鍬ひ　重分

一田つ初めて平水の者　北枝

望のまゝ慈ゝ苗　支考

蛍

鳥ゝの燈ゝ　洋六

ゝ月ゝ叫の蛍ハ明ゝ　曲薮

洗濯

洗ゝ平休ゝ行義つひ　半残

春ゝ蛍ゝ彦ゝ夕源　惟然

洗川の底ゝ布て

ゝ洗ゝ平ゝ　丈弗

洗ゝ平蛍ゝ　重翠

石ゝ蛍ゝ夕ゝ　長崎　杜年

洗ゝ平ゝ川の中　万平

浸菖　三句

鶏ゝ中ゝ洗ゝ　佃堂

洗ゝ平ゝ　支考

生薬を移ゝ洗ゝ　重茂

芭蕉ゝ平ゝ　麗力

洗川ゝ平ゝ　今

ゝ洗ゝ　玄東

洗ゝ平ゝ石の上　氏秀

職人の洗ゝ　土芳

洗ゝ平ゝ　我尚

洗ゝ平ゝ　里圃

盛夏

ゝ平ゝ　秋蕨

ゝ月ゝ　万平

義医者ゝ　

蓋行

実ゝ　氏秀

元葺の月ゝ　乙孔

燥ゝ　燈氏

夜ゝ　素流

ゝの平ゝ　我猪

ゝ平ゝ　印花

ゝ平ゝ　卓成

ゝ月ゝ　里夏

ゝ　沾圃

竹の子

筍よ如何なる君の履うぞ　丁柳
石弗や蟬鳴く庫裏の夏　曲翠

五月雨きさらぎ

白雲や雨もちらぬ松白帆　不玉
五月雨や　鶯鳴く葉の畑　芝夏
青田や　蹴さつる波つくひ　仙圃
夕立さ　会ろう傘　松彼
雨の中　蓮の葉たく池の芦　若藤
雨やちらし　水の夜　隆鳥
夕立ふ傘かさ　やま一町　圃水

蟬

夕立中　鶏して蟬の声　正秀
きつく来て　ぶて去り蟬の夢　好故
夏の海　き市や　夢　也弟
海の海　の蔵　夢　隆鳥

かつを

鰹の目中　潜ぶ　沖線　茅拾

雑夏

夏海　の夏の　杉地
出の青　る葉　前口
夏過ぎ　烈し　真

川狩よいて

夏の海中　走る　折桂　文鳥
異国より　我ら　彩中　芳宗
夕美八　も　水　水路

世を　あよ　光世を

中　あひて

岩ひ　岩も　隠ちハ　馬蒐
物　中　花　竟卒
海　中　海　時雨
海　川　夏　水路

普の　山　筆　芭蕉
夏形　夏　中　雅然
秋　る　夕

夏海　の　八
夏　夏　の　八
夏　夏　の　八

扇一　行　世　交
特　の　八　特五百　支考

秋之部

六月

六月　葉　香中　田の　芭蕉
名月　の　と　柿　嵐
夏　八　蝉　月　夏
年　中　の　月　芭蕉
は　月　の　月　芭蕉

支考俳

西吾　姚行　多治　智日　国指　泳梨　只玉　配力

支考　空牙　姚真　宗比　水枝　利合　丹枇　水殿　正秀　支門　景松

[illegible]

伯圃　馬蒐
里東　牧壹

[illegible]

芭蕉
全
桂雄

七夕

[illegible]

惟然
涼葉
東湖
伯圃
乙孤

秋草

[illegible]

寥川
尤次

[illegible]

杵柳
隨友
濁子
馬蒐

一節[illegible]

皂栗
支陵

賜邑蕉庵

[illegible]

[illegible]
定非
万年
芭蕉
至曉
圭芝

[illegible]

[illegible]
桃葉
[illegible]
牧下

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

支考　雁岱　亦帝　沾圃

蓑

蓑衣二百十りも惡形一　蓑衣　酒子

百月十年年くの蓑の玉梅　支考

惡衣の年年くの蓑の蓑

野亟房

むくさ年年くの蓑の蓑の蓑　亟峰

傳くの一蓑の年年くの蓑　文州

蓑秋

蓑秋　水

蓑秋を裁りの糸は服うの　乙孔

秋秋を蓑けなる蓑のい　芭蕉

雜秋

五六十法をつひて後了　之道

蓑うくれの蓑似人れの年　閑友

ゆく蓑の蓑ちくくなる　唯止

傳く蓑年蓑れゆく秋の色　四友

年ゆくひとおの蓑くの蓑　萩子

蓑の蓑の蓑年蓑くの蓑の蓑　万年

村の蓑も焼味噌りん蓑蓑　素竹　家陵

本馬を馬を蓑蓑蓑蓑の

節蓑を水て蓑すの蓑を

亟蓑蓑蓑の蓑の蓑

生まのたくの蓑と蓑蓑

くの蓑年の蓑蓑蓑蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　芭蕉

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　芭蕉

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

蓑の蓑の蓑の蓑の蓑

秀川　甲園

沾圃　北枕　支考

元禄辛酉之秋冬九日
素堂菊園之源

芭蕉　皮肉　杭虎　沾圃　秀良　馬莫

芭蕉　車庸　土芳　秀笠

沾徳　秀沾

曲翠　氷固　惟然

素堂

冬川や舟の岸ハ石ばしり岩のる　雅武
鶯さそふ岩きはの舟の岸ハ　松阪

本村坊主池の庵を尋て

たびとゝのふ人なてみる庵哉　イセ　一瓢
梅さく　さくる　初花　世　世　杉阪
牛のり　返ハ梅ぬのちり　世　松斜
多賀　上　年　年　乃鶴
年梅　年　年　年　利牛
ハ梅　ての　の　の　支考
ハ梅　ての　の　の　多角
ハ梅　ての　の　の　多角
ハ梅　ての　の　の　杉阪
ハ梅　ての　の　の　杉阪
ハ梅　ての　の　の　杉阪

支考
國分
文州
陽和
祝力
史邦
指月
馬蒐
紳六
沈園
殘菊
芙蓉
馬蒐
園祝
惟魚
盛水
北素
馬帋
芳良

つ
東
華
生
車木
方中
唐中
其南
正秀
萩子
猿頸
惟然
芭蕉
支考
土芳
尚白
お年
松緩
山蜂
利合

●釋教

涅槃

涅槃経のきしきに基き日本
第七金剛経の第五章に教張の者
山寺中樹ちりかゝる松ちん像
実福の海をこゆ神通ん像

法華

法華経ハ法華井ハ法華の経
経なり仏説ハ法華と云ふ
法華経中教主釈迦ハ法華ハ法華

説教

説教ハ説法ハ説教
説法ハ説教ハ説法

斜歳　法園
土芳　芭蕉
麥十　不撥
仙枝　曲翠
圓仙　不玉
寺芝　之道
口谷　法園
法園　杉風
法園　芭蕉
不撥　山樹
曲翠　不玉
不玉　之道
之道　法園
法園　芭蕉
芭蕉　惟然
惟然　支考
支考　太祇
太祇　支梁
法園　法園
法園　法園
法園　法園

[illegible]

支考

旅

淫別

元禄七年の夏芭蕉庵の
別れをしん作りて

麦ばたけ隣の庵の別うる
別れをも林檎食へ〜坂の上

待宵の月雲はよおもひ〜時
旅人のこんりゅう作と林檎もも

芭蕉

留別

海の暗然り寂
古人を偲ぶ時

草の中出立の草鞋おろし
林檎をのみ食おろしたんぶし

芭蕉

星霜のみの名残惜しき時
岩鼻の山はまかりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保二年乙巳五月

花鳥庵蕉雅為校

流上齋

江戸

日本橋通一町目　須原屋茂兵衛

浅草茅町二町目　須原屋伊八

芝神明前　岡田屋嘉七

日本橋通二町目　山城屋佐兵衛

同所　小林新兵衛

書林

本石町十軒店　英大助

下谷御成道　英文藏梓